



絵画+詩+音楽の非日常体験

5月16日 (土) 14時より 入館料+500円 (1ドリンク付)

ダンシング・ポエット (詩の舞人) うめのいずみ・ピアニスト上畑正和

ギター原田正有のコラボレーションを行います

梅野亮の作品からイメージした、うめのいずみの詩と舞・上畑正和・原田正有の音楽による
即興的異次元空間をお楽しみ下さい。(ご予約不要です)



■梅野 亮 (画家)

福岡県八女市出身

幼少時より、父親の所蔵品、青木繁、古賀春江等の作品に接し独学で画家として立つことを決意、1973年21歳で「青春画譜」刊行同年、銀座彩壺堂より鮮烈デビュー。美術評論家・河北倫明、画家・中村正義らより激賞されるも独自の道を行くために渡仏

パリでは多くの習作を残し詩や短歌も詠む

帰国後、銀座セントラル絵画館で大規模な個展が開催されるなど精力的に作品を発表するが、突然山にこもり画風に大きな変化があらわれる詩画集「OIL RABBIT」制作にあたり独自の熟処理技法によるヒート・アートを生み出す

1977年、物語性を帯びた連作「マグラトール」制作 1980年より発表をやる

2010年以降、再び履を切ったかのように様々な実験的手法に取り組み、日本、フランス、ドイツで新作発表



■うめのいずみ (詩人)

幼少期を兵庫県で、思春期をエジプト・アレキサンドリアで暮らす

大学時代、詩誌「のつべらぼう」創刊。伝説の渋谷ジャンジャンで白石かずこ、諏訪優らと詩とジャズのコラボに参加。美術雑誌、PR誌の編集を経てコピーライターとして活躍 1985年、フリーとなり、アジア各地を旅する。帰国後、チベット文化紹介のためのイベント企画、執筆、翻訳などを始める 1997年より、「アート・音・料理・環境」と「声・コトバ」を響かせ合うコラボで「月を聴く夕べ」「詩とエスラージ」「花祭りの会」他、自作詩パフォーマンスをミュージシャンらと展開

内面においては、大自然と交感し、意識、コトバ、身体の統合を探索表現においては、微細な美と人生の妙味を共に祝う場を創造 そのひとつとして「コトバをダンスする〜よみびとの会」「五大元素を体感する」など各種ワークショップを開催

詩集に「OIL RABBIT」「恋文」(画: MAKOTO) 翻訳書に「チベタン・ヒーリング〜古代ボン教・五大元素の教え」「雪の国からの亡命」(共訳)「癒しのメッセージ」(共訳)「宗教を語る」(インタビュー) など



■上畑 正和 (作曲家・ピアニスト)

大阪府出身 大阪工業大学卒業。高校生の頃、独学で作曲と和声研究に没頭し、ジャンルにとらわれない独自のスタイルを確立する

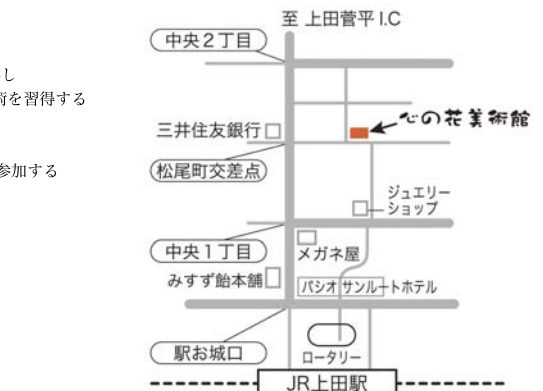
基本はPOPなメロディーと美しい響き。大学卒業後、大阪での活動を経て1994年東京に移る。CM音楽を中心に様々なアーティストやアニメ、TV番組等の作編曲、ロックバンドやボサノバのプロデュース等を行なう。またクラシック演奏家への曲提供も手掛ける。近年ピアノでのソロ活動に力を入れている。ライブでは必ず即興演奏を行なう。ヴァイオリン・チェンバロ・笙・二胡・カリンバ・尺八・オカリナ等、様々な楽器とのコラボレーションでは美しく調和することを心掛けている



■原田 正有 (画家・ギタリスト)

12歳でギターの練習を始め、奈良市内楽器店にてジャズギタリストの結城大氏に師事し以後高校を卒業するまでブルース、ジャズ、ボサノバ等、幅広いジャンルの知識と技術を習得する 17歳にてジャズをはじめとしたナンバーで初のソロコンサートを2回行う

ドイツ滞り及び、芸術アカデミー卒業までデュッセルドルフにてジャムセッションに参加する アフリカ人ピアニストとのジョイントやドイツ人ギタリストとの共演を始め奈良平城遷都祭やドイツにて活動の場を広げている 現在、佐々木忠氏に師事



●JR上田駅「お城口」より徒歩約5分
●お車の方は近隣の有料Pをご利用下さい

心の花美術館

H.P: 心の花美術館 ▶ 検索 〒386-0012 上田市中央2-7-23

メール: info@kokohana-artmuseum.com tel/fax: 0268-22-0022 (加藤・増田)

* イベント当日は混雑が予想されますので近隣の有料Pをご利用下さいませ